

2月末の人口
世帯数 624
男 833人
女 811人
計 1,644人
(馬路1,121人)
(魚梁瀬523人)

広報 うまじ

昭和60年3月15日発行
第二二二号
編集 馬路村教育委員会
印刷 安芸印刷



第3回村民駅伝競走大会（1月26日）

ゆずりあう

春の交通安全運動 4月6日～15日

心が無事故の 第一歩



4月6日から15日まで、春の全国交通安全運動が行なわれます。今回の重点目標は、次の三つです。歩行者もドライバーも、暖かい陽気に気を緩めることのないよう、みんなで確認しましょう。

- ① 新入学(園)児を中心とした子どもの交通事故をなくそう。
- ② シートベルトやヘルメットの着用を徹底しよう。
- ③ 二輪車を中心とした無謀運転を追放しよう。

今月のイベント

1 月

- 17日 馬路村文化財保護調査委員会(就改センター)
- 17日 村おこし事業運営委員会・杉の加工工芸研究部会(コミセン)
- 18日 部落長会(就改センター)
- 20日 馬路小・中学校参観日
「小学校親子タコあげ大会・中学校一日先生」
- 22日 産業振興座談会(コミセン)
- 23日 健康づくり魚梁瀬～馬路駅伝競走大会
- 24日 過疎対策特別委員会(就改センター)
- 24日 社会教育委員・公民館運営審議会合同委員会(就会センター)
- 26日 第3回村民駅伝競走大会(馬路)
- 29日 農業委員会(就改センター)
- 31日 村おこし事業運営委員会・ふるさと観光開発部会(コミセン)
- 31日 栄養教室(魚梁瀬公民館)

2 月

- 5日 村職員採用試験(就改センター)
- 6日 魚梁瀬小・中学校教育懇談会
- 10日 中芸地区子ども会駅伝競走大会(安田～中山)
「参加19チーム、魚梁瀬7位・馬路16位」
- 11日 猪鍋をかこんで村づくりを語る会(コミセン)
- 12日 乳児検診(就改センター)
- 15日・26日 過疎対策特別委員会(就改センター)
- 15日～18日 東部美術展(北川村民会館)
- 18日 馬路小学校校内マラソン大会
- 16日 県民総スポーツ推進県民会議(高知市)
「故丸山裕朗氏特別賞受賞」
- 17日 第33回県市町村対抗駅伝(参加38チーム、馬路32位)
- 20日 魚梁瀬小学校校内マラソン大会
- 20日 熊野神社火鎮め地鎮め例祭(馬路熊野神社)
- 22日 林業振興地域整備促進協議会(就改センター)
- 22日 村政懇談会(魚梁瀬公民館)
- 22日 馬路地区スカッシュバレーボール大会(馬路体育館)
- 23日 魚梁瀬古式弓射式(魚梁瀬熊野神社)
- 25日 農業委員会(就改センター)
- 25日 人権相談(就改センター)
- 26日 総務・産業建設常任委員会(就改センター)
- 26日 魚梁瀬地区スカッシュバレーボール大会(魚梁瀬体育館)
- 28日 馬路村森林組合・農協組合総会(就改センター)

3 月

- 1日 教育委員会(就改センター)
- 2日 魚梁瀬保育所ひな祭り会(魚梁瀬保育所)
- 2日 馬路小学校児童会主催ひな祭り発表会(馬路体育館)
- 2日 村職員研修会(就改センター)
- 4日 バドミントン教室(魚梁瀬体育館)
- 5日 県下東部三営林署合同植樹祭(北川村)
- 7日～12日 3月定例村議会(就改センター)
- 10日 馬路村文化財保護調査委員会(就改センター)
- 13日 馬路保育所お別れ会(馬路保育所)
- 15日 馬路中学校卒業式(就改センター)



↑ 1月26日 第3回村民駅伝競走大会



↑ 2月20日 熊野神社火鎮め地鎮め例祭



↑ 2月20日 魚梁瀬小学校校内マラソン大会



↑ 2月23日 魚梁瀬古式弓射式

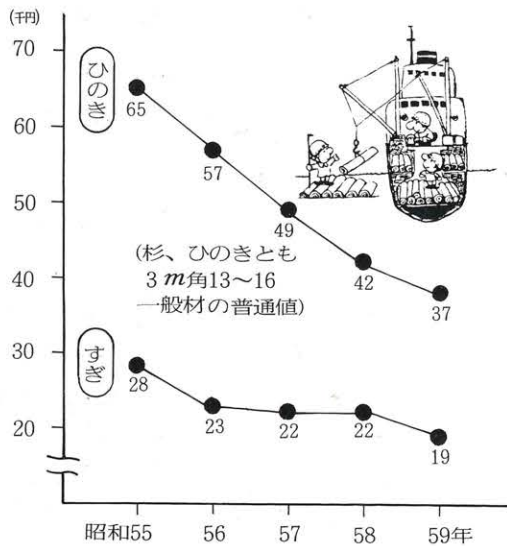


↑ 3月2日 馬路小学校ひな祭り発表会

あすの馬路村を考える

村おこしはみんなの力で

図① 木材共販価格のうごき



馬路村は、恵まれた自然環境のもとでスクスクと成長した魚梁瀬杉を中心とした「優良な杉の産地」として、県内外に知られてきました。一時期には、木材売買を職業とする木材業者が、村の経済に活力を持たせていたものです。

しかし、木材業界を取りまく最近の情勢には厳しいものがあり、図①が示す木材価格（高知県森林組合会共販センター調べ）の推移にも、木材産地の苦悩がうかがわれます。

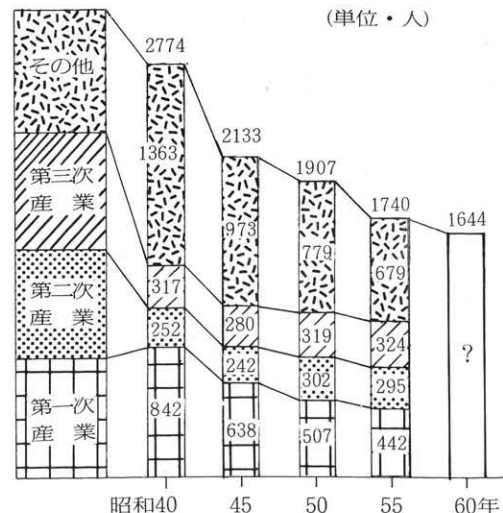
さて、馬路村の人口の移り変わりをみてみましょう（図②）。これは、五年ごとに行なわれる国勢調査によって、全人口を産業別に分けたものです。

昭和四十年と五十五年を比較すると、全人口では約四〇％の減となつています。四つの就業分類のなかで減少しているのは、第一次産業と、その他に含まれる人で、第二次・三次産業の人口は、むしろ微増しています。つまり、馬路村の自然特質を生かすはずの農業

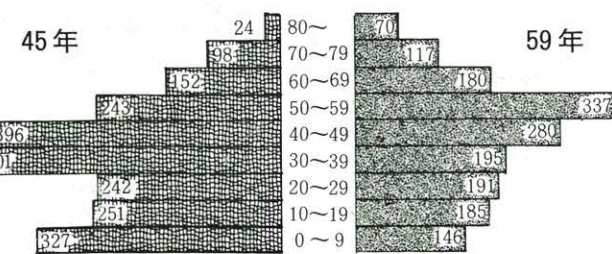
減りつつける人口

下がる木材価格

図② 馬路村の人口の推移 (単位・人)



や林業従事者、およびその他（子どもや老人が大部分）が減少し、第二次・三次産業に含まれる建設業、製材業、小売業、サービス業、公務などに従事する人口は、変化していないようすが分かります。そこで、年齢段階別の人口構成をみてみましょう（図③）。やはり、若年層の激減と、高齢化社会の前兆が、大きな課題となっていることが感じられます。



図③ 年齢別人口の比較 (単位・人)

先進地視察レポート

いばなりのなほいつ

馬路村商工会
経営指導員 清岡博基

馬路村商工会では、昭和五十九年度通産省新規事業である「街づくり、村おこし」事業の指定を受け、特産物や特産品および未利用の観光資源開発のためのアイデア募集、製品試作、PRなどに取り組んでいます。この事業の一環として杉の間伐材を生かした木工芸品づくりで大きな成果をあげている「津山町」を視察してきました。そこで広報紙を通じて、同町の「木工芸の里づくり」を紹介し、本村の村おこし事業へのご協力とご指導をいただきたいと思います。

「木工芸の里」 津山町 をさぐる

津山町は、宮城県北部、本吉郡の最南端に位置する人口五千人あまりの町で、国鉄気仙沼線や国道四五号線・三四二号線・県道河南津山線などが交差する交通の要所です。

町の総面積は六七・九七平方キロメートルで、うち山地面積が約八五％を占め、耕地面積は約六％にすぎません。気候は比較的温暖で、川が多

いためモヤが立ちやすく、杉の成長に適しており、「津山杉」として知られています。

山林の所有形態は、馬路村とはちがひ、すべてが民有林で、山林面積は五・七四ヘクタールです。

津山杉は、本村のヤナセ杉のように生育がよく、二十五年〜三十年で伐採可能となり、経済効率が高いことから、昭和三十年ごろには町の経済は林業によって支えられていました。

ところが、昭和四十年ごろからの木材需要の停滞、外材攻勢などによって、成長がよいため年輪が粗く材木として価値の低い造林木が中心の津山杉では、伐採しても採算があわなくなり、林業経営が

破たんをきたしてしまいました。

町民の造林意欲や、杉に対する経済依存度も大きく後退してしまい、都市への人口流出による全国的な過疎化現象とあいまって、津山町の人口は減少していきました。

このような状況の中で、稲作以外にこれといった町づくりの手がかりを持たなかった過疎の町、津山町が、人づくりから始めて、木工芸を産業として定着させました。

それも、価値が低いと見下げられていた地元の杉に新しい工夫を加えてよみがえらせ、海外からも高い評価を受ける木工芸品を現在つくっています。

津山町では、昭和五十二年に町の基本構想の見直しを行ない、佐々木町長が新しい産業づくりを提唱しました。その時プロジェクトチームに示したのは、次の六つの条件をみたせる地場産業のほりおこしでした。

- (1) 都会で生産できないもの。
- (2) 季節に関係なく、通年作業、通年販売が可能なもの。
- (3) 素材、資源が無限で、自給可能なもの。
- (4) マーケットの開発が容易で、価格変動の少ないもの。

←国道45号線沿い。三角屋根が目をはくモクモクハウス



- (3) 技術的な指導は、県工業技術センター・東北工業大学・農林水産省林業試験場の指導を受けられるようにする。
 - (4) 流通関係は、仙台通産局・県商工当局・物産振興会の協力を受ける
- そして、これら県などのあらゆる関係指導機関の協力が得られるかどうかを確認し、事業に着手したのは、提案があつてから二年後の昭和五十四年のことでした。

- (5) 町民が親近感を持てるもの。後継者の育成が可能なもの。プロジェクトチームでは、いろいろと検討した結果、山林に囲まれて育ったものの杉への愛着から津山に眠っている無限大で無価値な間伐小径木の付加価値を高め、産業おこしをすることに結論をみいだし、提案しました。

佐々木町長はこれにもとづき、事前準備として、まず次のことを行ないました。

- (1) 議会の理解を得ること、町民の意識変革と、それにもとづく協力のとりつけに努める。
- (2) 施設・設備については、財政的な面もあるので、国・県の指導を受け、最も適切な補助事業を選択導入するようにする。

いざ実施することになりましたが、地元には木工にたずさわる技術者はいませんでした。そこで、町は町民に向かって「木工を勉強しませんか」と呼びかけたところ、三十五人が名のりを上げました。そして、町役場の裏にバラックの研修所を建て、宮城県工業技術センターと、東北工業大学に協力してもらい、昭和五十五年一月から技術者の養成に乗り出したのです。研修は午後七時から十一時まで行なわれ、研修生が最初に取り組んだのは、ケヤキ材を使った灰皿、つば、わんなどでした。杉の加工は技術的にむづかしく、この段階では杉を加工できる自信は、地元にはなかったからです。

昭和五十五年七月には、二人が

訓練を終えて独立、五十五年秋から五十六年春にかけてさらに六人が独立し、現在では十九人の独立者がいます。独立した人たちは、昭和五十七年十一月に「津山木工芸品事業協同組合」を組織し、新しい研修生の指導や商品開発・デザイン改良・展示発表会・先進地調査などを、国の補助金を受け、行なっています。

また、研修施設も昭和五十六年六月に木工センターに併設して新しく完成し、現在二十八人が新しい研修施設で勉強しています。



→ 矢羽材でつくった津山町の工芸品

津山町では、ケヤキの加工を行なう一方で、宮城県工業技術センター・東北工業大学とともに、木目の粗い津山杉の間伐材を、どうすればうまく活用できるかの研究に取り組みました。そして、昭和五十七年の春に、杉材を角度を変えて張り合わせ集成材に仕立てあげると、独特の矢羽模様になることを開発し、また、杉の丸太に圧縮空気でガラスビーズを吹き付けると木目が浮き彫りになる「化粧柱づくり」を開発したのでです。

この製品開発によって、津山町では、矢羽集成材を原材料とした木工芸品と、化粧柱がこの町の木工芸産業の柱となりました。

昭和五十六年六月に完成した町営工場の木工センターで、化粧柱や壁用建材の生産と矢羽集成材の製造・供給を行ない、独立した木工技術者が、この矢羽材を加工した木工芸品をつくるという体制ができたのです。

また、五十七年六月には商品を販売する施設が、国道四五号線沿いにつくられ、クラフトショップ「もくもくハウス」という名前がつけられました。この「もくもく」という意味は、単に樹木につながるということではなく、試練に耐えて「黙々」とはげんできたこの町の歴史を意識して命名したものだそうです。

津山町は、柳津町と横山町に分

かれておりますが、どちらも過去にきわめて悲惨な状況下に置かれた体験を持っています。

まず柳津町は、明治四十四年に行なわれた北上川の大改修で、それまで住んでいたところを国の力で追われ、現在の位置に移ったのですが、その時に一七〇ヘクタールの水田を失っております。

また、横山町も昭和二十二年に大火に見舞われ、町の大半を焼失しています。復旧しようにも戦後の混乱期だったので、クギ一本にもこと欠いたそうです。

このような苦勞をしながらも、沈み込んだり、投げ出したりせず、黙々と努力を重ねて、はいあがってきた町の歴史を、これからの町づくりにこめて「もくもくハウス」と名づけたと聞きました。

このクラフトショップ「もくもくハウス」の運営は、町が木工芸品事業協同組合に委託しており、五十八年度の売上高は六千万円、入場者も五万人を数えました。

また、県などが主催する物産展や見本市にも、積極的に作品を出品して販売ルートの開拓に努めており、仙台では「津山くらしのクラフト展」という町独自の展示会も開催し、大きな反響を呼びました。最近では、問屋からの注文や、大口需要者との商談も成立しており、供給が必要に追いつかない現状にあるそうです。

昭和五十八年度の生産額は、化粧柱も含めると一億円であったが、佐々木町長は、これをいざ津山町の稲作の生産額と同じ四億円にのっていき、水稲に匹敵する基幹産業にしたいという。そのためには、独立した木工技術者を、まず三十人まで育てることを目標にしています。

ところで、研修生が独立する場合の独立資金はどうしているのかというと、宮城県がつくっている「地場産業育成資金」を利用し、町がこれに利子補助して、無利子で融資（最高五百万円）が受けられるようになっていきます。

また、木工芸の町づくりを目指すなら、子どものうちからそれになじんでもらおうと、小学校に、ノミ・カンナ・カナヅチ・キリ・ペンチなどの道具を、一学年の児童数分そろえたほか、電動式のノコギリも三台購入し、三年生以上の児童に使わせるようにしているそうです。

「子どもたちが『津山ってどんな町？』と聞かれたら『木工の町だよ』といえるようにしたい。また、そういうふうになっていけば、必ず何人かは木工を職業にする子どもたちが出てくるのではないだろうか。地域に産業を、本当に根づかせようとするならば、後継者をこく小さいうちから育てなければならぬ。」と、佐々木町長は

語ってくれました。

◇ ◇ ◇

私たちは、今回の視察を通じて、いろいろと考えさせられました。杉の造林木だけしかなく、条件的には決して恵まれていない津山町が、五年という短期間で、このような立派な実績をあげているのに比べ、本村は十年あまりの実績がありながら、後から始めた津山町に先を越されています。

このままで行くと、なおいっそう差がつくように思われます。それでも、こちらにはヤナセ杉という立派な資源がありながら……。

なにが原因だろうか？。なにが馬路には不足しているのでしょうか。

しかし、これを裏返して考えると、馬路村が木工芸品産業を村の基幹産業として真剣に推進していくつもりなら、条件的には決して津山に劣るものはないのです。

だから、馬路村を津山町以上の立派な「木工芸の里」にすることも可能だと思われれます。

私たちは、今回の視察によって、「やればできるのだ」という、村づくり運動に大きな勇気と自信を得ることができました。

馬路村商工会では「村おこし」についてのご意見やアイデアをお待ちしています。

電話 21108

村おこしをきめる

昭和五十九年度先進地視察報告

農業委員会

農業委員会では、地域振興対策の一環として、先進地における「一村一品運動」などに対する取り組みについての調査を行ない、今後、本村における地域振興に対し、その対応を図ろうと検討を行なっています。

今回は、全国的にも活動が評価されている大分県の実況を視察しましたので、その結果をご報告します。

大山町は どんなまち？

大山町は、大分県の西部に位置し、南を熊本県に接する山あいの町である。

町の総面積四六・二六平方キロメートルのうち、七九パーセントを山林が占め、一〇パーセントあまりの農地においては、水稻を中心として、野菜類、ブドウ、ナシ、ウメ、クリなどが栽培され、農地の効率的活用が図られている。

人口は、昭和三十年には六千四百八十五人をかぞえたが、その後減少を続け、昭和五十年には四千七百一人となり、二十年の間に千七百八十四人も人口減少にみま



われました。しかし、その後は横ばい状態を続け、昭和五十八年においては四千七百七十七人と、昭和五十年に比べ七十六人の増加をみている。

過疎化に悩む山間地、大山町が、その対策の一環として進めてきた「一村一品運動」が、結果として人口流出に歯止めをかけた功績は、大なるものがあると思われる。

NPC運動

過疎化の一因である山間地特有の重労働、低所得を克服するため昭和三十六年、当時の村長であられた矢幡治美氏（現農協組合長）の提唱により始められた「NPC運動」は、軽作業で収益の高い梅やクリを栽培し、安定経営を確保しようというものであり、「梅・クリ植えてハワイへ行こう」という運動であった。

米だと十アール当たり十五万円

になればよいほうであるが、梅だと五十万円になり労力も半分ですむ。矢幡氏の強力な指導により、この運動は成功し、ハワイへの旅行者も年々増加しているといわれる。

その後、矢幡氏の長男である欣治氏を中心として、第二次・および第三次「NPC運動」が展開され、「人づくり運動」に始まり、果樹の収入を「ボーナス」と考え、天候に左右されない回転のよい新しい農業をめざしてのエノキダケ導入、特産化など、着実に成果を上げている。

現在、このエノキダケにおいては、九州でも八〇パーセントを超えるシェアを持ち、生産額は十億円に達している。

こうした「NPC運動」の結果、農協組合員農家七百戸中半数は、可処分所得五百万円を達成しているといわれる。

五次産業

豊富な農産資源を活用し、さらに付加価値の高い農産加工に着手し、「一・五次産業」への成長が図られた。

現在、農協加工場において生産されている加工品だけでも、梅・イチゴなどのジャム、味しめじ、栗甘露煮など二十種類にのぼり、昭和五十八年度売り上げは四億円

に達している。

基本は人づくり

大山町におけるこれら運動の成功は、優秀かつ実行力に富んだ指導者の存在によるものと考えられるが、基本となるものは、あくまでも人づくりであり、意欲ある担い手農家などの育成、また、それが可能となりえる、夢をばぐくむことのできる農業施策など、失敗を恐れず新しい農業に取り組めるような体制・思想づくりが、今後馬路村にとっても大きな課題の一つと考えられる。

一村一品運動

全国土の五〇％を占める過疎地域では、全体の八割の市町村で人口の減少が続いています。そこで、就業機会の増大や若者の定住につながる産業の振興を図ることが、重要な課題となっています。

地域産業おこしは、地域の資源や技術を活用して独自の特産品をつくり、地域経済の活性化を図ろうとするもので、大分県における「一村一品運動」は、全国的にも注目を集めています。

天瀬町にみる 新しい農産品加工

温泉と

高塚地蔵の町

天瀬町は、大山町の東隣に位置し、温泉と、子育ての「高塚地蔵尊」で有名な町である。

町を横断する久大本線の豊後中川駅から北へ五キロほど入った山あいには、わずか七戸の北平集落があり、この集落の七人の主婦による農産品の共同加工が、山間地における零細農業に一つの改革をもたらしている。

主婦と

ゆでまんじゅう

北平集落における七人の主婦による農産品加工販売は、山間地における零細農業にたよった、経済的に不安定な生活を克服するためのものにほかならなかった。

しかし、昭和四十八年に農業組合法人「北平食品加工組合」を設立し、新農業構造改善事業による補助のもとに、加工場建築・加工機械の導入を行ない、地域に根ざした食品であるゆでまんじゅう・

よもぎもち・みそ・みそ漬・たぐあん漬・チヨロギ漬・梅干・金山寺みそなどを製造し、集落から二キロほど離れた峠の上にある高塚地蔵尊の売店で販売している。

この地蔵尊は、乳地蔵、進学地蔵として有名であり、年間百万人もの参詣者が訪れるといわれ、販売面においては非常に恵まれているといってもよい。

また、これら加工品の年間販売総額は約七千万円に達し、目玉商品である「ゆでまんじゅう」は、その六〇パーセント、約四千二百万円を占めており、この加工場の経営主である主婦たちは男まみの高給給与を得ているといわれる。

主婦パワー発揮

商品は製造より販売が難しいものであるが、北平集落における農産品加工産業は、地元が高塚地蔵という大市場をかかえており、ほかに類をみないような成功がもたらされたといっても過言ではないと思われる。しかし、今日の成功をみるまでには、零細農業にたよった生活から脱皮しようとする主婦たちの意欲、加工組合発足当時の経営悪化に対する前進的な取り組みなど、地域から起こった活動の力強さには、注目すべきものがあると思われる。

米飯の重要性を見直す

望ましい日本型食生活をめざして

現在、平均的な日本人の栄養バランスを見ると、三大栄養素であるタンパク質、脂肪、炭水化物がほどよく取られ、ほぼ理想に近いものとなっています。

一方、日本人の食事パターンとよく比較対照されるアメリカの場合、炭水化物の摂取量が少なく、脂肪が多いところの問題があります。

お米の栄養価

タンパク質は 牛肉、牛乳とほぼ同じ

成人病の誘因ともなる脂肪の取り過ぎを抑え、炭水化物、中でもでんぷん質の摂取量を増やすことを目指して、国を挙げて食生活改善に取り組んでいるアメリカが「日本型食生活」に注目するのは当然ともいえるでしょう。

タンパク質の五分の一は

お米から

日本人の食生活の第一の特徴は、お米という主食が炭水化物摂取量の大きな割合を占めていることです。畜産物、海産物、野菜など、どんな食品にもよくなじむお米の長所が、多様性に

様々な副食類を食べている今日でも、わたしたちはタンパク質の五分の一をお米から取っています。安くて栄養価の高いお米

タンパク質の栄養価は、プロテインスコア（タンパク質）で表わされますが、これは数値が高いほど、良質のタンパク質食品であることを意味します。

プロテインスコアが一〇〇を示すのは、理想的なタンパク質食品といわれる卵ですが、これに対して、お米は七八。小麦粉（五六）や、畑の肉（五六）といわれる大豆（五六）を大きく引き離

七二・八グラムと最も多く、次にタンパク質で七・四グラムと、さらに他の食品と比較して、価格が手ごろなこともお米の魅力の一つです。タンパク質十グラムの単価を比較しますと、牛肉（中）百七十七円、牛乳八十九円に対し、お米は五十三円。



「良質で安い」お米は、名実ともに優良食品といえるのではないのでしょうか。

子どもたちの目

わたしの馬路村

前回から、青小・青年育成馬路村民会議が村内の小・中学生から「馬路村」について募集した作文のなかから、優秀な作品を掲載しています。今回もそのなかから、二点を紹介します。

子どもたちは、私たちが思っている以上に、おとなをよくみています。未来の馬路村をせおう子どもたちをすこやかに育てるためにも、私たちおとなが模範にならなければと、心から思います。

こんな馬路村に

馬路小六年

樋口達也



ぼくたちの住んでいる馬路村は、山に囲まれた村です。緑に囲まれた美しい村で、いいところです。でも、こういう馬路村にしてほしいという希望もあります。

一つめの希望は、馬路村のチリを減らすことです。ぼくたちがチリ拾いをして、絶対七、八ふくらとれます。どんどん減っていきますが、今、捨てている人はいったいどういう気持ちで捨てているのだろう……。

ぼくは、もっとチリばこを増やしたらいいと思います。観光客の

が右を通ったり、人が左を通ったりして、ルールが守れていないから、交通ルールを守る馬路村にしたいです。

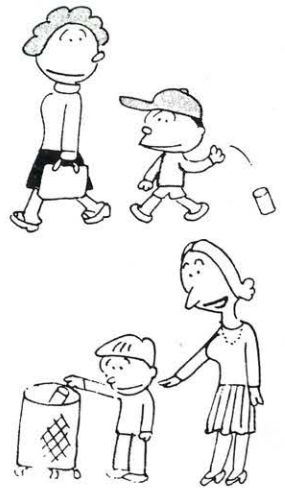
四つめの希望は、子どもが自然で遊ぶようにするような行事が、もっとあったらいいと思う。

このごろの子どもは、外で遊びません。まわりに山や川などがあるのに遊びません。都会の子どもが遊べない山もあるのに、遊びにいかないで、家で遊んでいます。山で遊ぶようにすることなどを考えてほしい。

それから、子どもが遊べる場所を作ってほしい。遊ぶところがあっても、遊具などがあってのびのび遊べません。のびのび遊べる広いところを作ってほしいです。子どもたちが外へ出ただけでも、明るい村になると思います。

五つめの希望は、馬路村の人口を増やし、交流を深めるということです。そのためには、やっぱり馬路村に一度来てもらいたいと思う。温泉だけでなく、もっといろいろなところも造って、ほかの町にないような物を作って、馬路村をいところだと思わせるようなことをすればいいと思います。

それと、もっといい仕事を作るところです。仕事をすると、人をたくさん作って、今いる人たちが引っこしていかないような仕事を作るのです。そうすると人も



減らないし、人口も増えてくると思っています。馬路は仕事さえあれば、まわりも山で、のどかなところですよ。仕事はどうにかできないものだろうか。

明るい馬路村をつくるには

魚梁瀬中一年

大野 安和



ぼくは、明るい馬路村をつくるには、いろいろな方法があると思います。

まず、小さなことからいって、くど、「あいさつ」だと思います。村の人々が、お互いに「あいさつ」をして親しみ合う、ということですよ。

会話の少ない村になってしまおうと、自然に暗い感じになってしまおうと思います。「あいさつ」のほかにも、道で出合った時の、少しだけのちょっとした「会話」が多ければ多いほどよいと思います。

今まで五つの希望を書いたけど、このような村になるとほんとうにいい村になると思います。人口を増やすために、どうにかできないものではないでしょうか。

「あいさつ」や「会話」などを増やすのは、やっぱり人が必要です。村民だけではなくて、そのほかの観光客なども、増やせばよいと思います。村内でも、温泉や自然に親しむという感じで、町からの観光客を呼びよせているけれど、ぼくは、まだまだ少なすぎると思っています。

でも、かといって、多すぎても困ってしまいます。長野県の軽井沢のようになってしまっただけ、今度は人が多すぎて、大切な森林資源をとりこわしてまで、観光道路

教育相談所だより 23

登校拒否を おこす心理



学校へ行けなくなる「きっかけ」は、ほんのちょっとしたことから始まっています。

登校拒否症を克服した本人たちがあげる「きっかけ」は次のようなものです。

——小学校時代——

○クラスの席がえやクラスがえ ○給食のこと ○友だちにいじめられる ○先生にしかられた ○体育の時間がきらいだ ○担任の先生がこわくなった

——中学校時代——

○成績が下がった ○友だちにいじめられる ○学級でいやな係に選ばれた ○先生にしかられた ○スポーツでの劣等感

——高等学校時代——

○成績が下がってあせりがでる ○緊張やつかれ、ちょっとした病気など ○先生との人間関係

客観的にみると、ほかの生徒たちにはなんでもないことが、本人自身はものすごく重大に感じています。

また、いま問題になっている「いじめ」については、十分な研究と対策が必要だと考えられます。

次に、高等学校一年生（女子）に、学校へ行けなくなったようすを話してもらいましょう。

「私は、中学校時代から便秘がちだったんです。気にしなければそれですむんですけど、高校に入ってから、みんなが勉強を、すごくするので、あせっちゃったのか、すごく気になるのです。便秘のことなんかはずかしくて、友だちにもいえないし、そのことばかり考えていると、胃がもたれてきたり、実際におなか痛くなったりして、授業中ぬけ出して、保健室へ行くのです。そんなことが、しょっちゅうあったものですから、こんなことをしていると、勉強がおくれると思って……。そのうちに、学校へ行くのがいやになるんですね。ほんとうに、くだらないことから始まって、こんなに大きなことになるなんて……。」

この女生徒の登校拒否の「きっかけ」は、本人がいつているように便秘であり、それが自分自身のあせりと結びついて、病気をおこしてしまったのです。

いわゆる「神経症的登校拒否」といわれているものです。

資料 「登校拒否」 学事出版

馬路村では、林業が主な産物になっているのだけれども、いつまでも木を切つてばかりいては、いつか、木が育つまで待たなければいけない時が来るかもしれません。そういうこともあるので、ほかにも馬路村を支えられる仕事を、つくっておけばよいと思います。仕事や人口のほかに、村の人

や観光地などの施設をつくらなければならなくなってしまう。それに、そんなことをしては、馬路村が馬路町になってしまうかもしれません。せっかく自然の中の村という感じなのに、もったいない感じになってしまうと思います。人口を適度に増やすよい方法は、観光のほかに、仕事を増やすことだと思えます。今後の仕事の数を増やし、大きくしていくことが、大切だと思えます。

いろいろと明るくすることはできると思うけれど、やっぱりどれも、それをする人々の「心構え」が必要だと思えます。みんなが、それなりの「心構え」があれば、一人ひとりの問題なので、村もすぐには明るくならないと思います。「心構え」といっても、だいたいの人が、同じ考えや同じ願いを持っていないと、一人ひとりが、てんでんバラバラの意見を持つて

人を明るくする方法が、まだまだあると思えます。ほかと思うのには、今までもいろいろな行事があったけれど、もっと特別で、村の人々が大勢でできる、どこの村にもないようなお祭り行事があればよいと思えます。一年に一度、すごく盛大な祭りがあると聞けば町からの人々も楽しく祭りに参加すると思えます。



いたのでは意見が一致しないので、自分勝手すぎる意見や行動もいけなと思います。いろいろな人とじっくり話し合って決めなければいけないと思います。政治と同じように、やっぱり話し合いで決めた方が、明るくてほがらかで、馬路の村民が願った村になるのではないかと思います。



家庭でしつけよう

新入学(園)児の交通安全

もうすぐ新学期です。

新入学(園)児をおもちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら、何かと準備にお忙しいことだと思います。

に遊びに行ったり……ここで気を付けなければならぬのが交通事故故です。お子さんへの交通安全教育は、家庭での「しつけ」の一つとして、ぜひ実行してください。

お子さんを交通事故から守るために――。



くらしと人権

歴史をとおして考える

女性史研究家 もろさわ ようこ

女たちは、子どもを産むことが大要（だいよう）とされて、原始共同体時代にはリーダ（リーダー）シップを取っていました。しかし、男中心社会になると、子どもを産むことが「女のけがれ」とされました。

「女は業（わざ）が深い。業（わざ）が深くて、この世によ（よ）しみを流すためにやってきた。なぜかという、女は月々（つきごと）血を流す。お産（うぶ）の時にはさらに血を流す。女たちが流す血が、



この世のもろもろの神、水の神、土の神を苦しめる。女の流した血がどこへ行くかという、つもりつもりで地獄（じごく）の血の池（いけ）へたまるのだ」と『血盆経（けつぽんぎょう）』には書かれています。

女たちは、そういう業（わざ）の深い生き方をしているのだから、死んだらば血の池へ投げ込まれる。血の池に投げ込まれた時に、助けを呼んでもだれも助けに来てくれない。ただひとり助けに来てくれるのは仏様（ぶつさま）だけなのだ。だから生きているうちに、仏様（ぶつさま）をよく拝（ひ）みなさいなどと、俗流（ぞくりゅう）仏教（ぶつこう）では説（い）っているのです。

このように、女たちの業（わざ）の深さ、血の汚れ（よごれ）がいわれるようになった時に、「獣（けもの）の皮（かわ）をはぐ報酬（ごほう）として生々（きき）しき人間の皮（かわ）をはがれる」という部落（ぼくらく）の差別（さべつ）も、同じ思想（しゆきやう）の道筋（みちすぢ）で現（あらわ）れてくるのです。

世界の古典（こくせん）となっているペーベルの『婦人論（ふじんろん）』に、「女と働く者は、いつも抑圧（おさへ）の共通（きょうこう）の運命（めいめい）を生きている」と書（か）かれています。しかし、日本（にっぽん）では、歴史（れきし）を見るかぎり、「被差別部落（ひさべつぼくらく）の人々（ひと）と女の運

命（いのち）は共通（きょうこう）している」といえるのです。

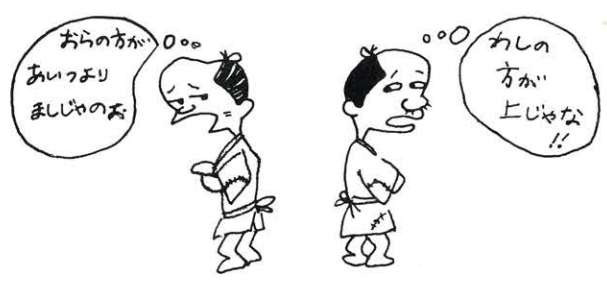
女の血（ち）の汚れ（よごれ）や、獣（けもの）を殺（ころ）して血（ち）を流（なが）すことが差別（さべつ）として説（い）かれるならば、ここで顧（か）みなければならぬのは、封建制（けんけんせい）社会（しやかい）を展開（てんげん）させてきた武士（ぶし）たちのことです。

鎌倉（かまくら）時代の書物（しよぶつ）をみると、「武士（ぶし）は犬（いぬ）とも言（い）え畜生（しよじやう）とも言（い）え勝（か）つことが先（ま）だ」とあります。

武士（ぶし）は、人殺（ひところ）しの血（ち）しぶきをあげて台頭（たいとう）してきました。武家（ぶけ）政權（せいけん）確立（かくてい）のなり立ち（なりたち）をみますと、戦争（せんそう）ばかりの連続（れんぞく）です。その人殺（ひところ）しの返（か）り血（ち）をいっぱい浴（あ）びて、武士（ぶし）は支配（しはい）階級（かいきゅう）になりあがってきいているのに、それ（それ）に対して（たいして）はおか（お）わりをしていました。武士（ぶし）に対して（たいして）は血（ち）の汚（よご）れを言（い）わずに、女（おんな）と部落（ぼくらく）の人（ひと）たちにはそれ（それ）を言（い）って差別（さべつ）することにより、封建制（けんけんせい）社会（しやかい）が確立（かくてい）しているのです。

その差別（さべつ）の思想（しゆきやう）を一般的（いぱんてき）に広（ひろ）めたのが、当時（たうじ）の寺（てら）小屋（こや）のお師匠（しせう）さんであつたお坊（お）さんや尼（に）さんたちです。彼（かれ）らは、権力（けんりく）の側（そば）に立つ（た）つてもの（もの）の見方（みかた）を説（い）いたのです。

仏教（ぶつこう）も儒教（にうこう）もキリスト教（きりすとうきやう）も、権力（けんりく）の側（そば）に立つ（た）つて俗物化（ぞぶつか）しなかつたらすばらしい思想（しゆきやう）だと思います。これらは、最も痛（いた）み深い人（ひと）たちの立場（たてかた）にある時（とき）には輝（かが）みますが、権力（けんりく）の側（そば）に立つ（た）つた時（とき）には腐敗（ふはい）していくのです。この腐敗（ふはい）方をしたのが、日本（にっぽん）の封建制（けんけんせい）体制（たいせい）のイデオロギ（い）と



なつた儒教（にうこう）であり、仏教（ぶつこう）であつたのではないかと思います。

閉（ひ）ざされていく封建制（けんけんせい）社会（しやかい）のなかで、女（おんな）と被差別部落（ひさべつぼくらく）の人（ひと）たちがその社会（しやかい）を支（さ）える土台石（どだいし）にされたのです。

徳川（てくせん）封建制（けんけんせい）は、あらゆるもの（もの）に上下（じやうげ）関係（かんけい）をつくることによつて成（な）り立ち（たち）ました。「自由（じゆう）平等（びやうどう）は悪（あく）で、人間（にんげん）が寄（よ）り集（あ）まると上下（じやうげ）がある（ある）のがあたりまえだ」というのが、封建制（けんけんせい）社会（しやかい）のイデオロギ（い）なのです。

封建制（けんけんせい）社会（しやかい）は、女（おんな）の暗黒（あんくわく）時代（じだい）でした。しかし、男（おとこ）にとつても決（けつ）してよき社会（しやかい）ではありませんでした。どんなに人間（にんげん）的な可能性（てんねいせい）を秘（ひ）め

ていても、家制度（かせいど）や身分（みぶん）によつて人生（じんせい）が決（けつ）まつたのです。家は長男（ちやうなん）が継（つ）ぐので、次男（じなん）や三男（さんなん）は「ネコのシッポ」といわれ、まかり間違（まちが）えば妻（つま）も持（も）たされませんでした。けれども「女（おんな）よりはましだ」ということで、男（おとこ）は自分のつらさをなだめたのです。

私たちは、男（おとこ）も女（おんな）もともに日本（にっぽん）の封建制（けんけんせい）社会（しやかい）という暗（くろ）いトンネル（トンネル）を通過（てうくわ）してきたのです。

封建制（けんけんせい）社会（しやかい）での生きがいは、自分の不幸（ふこう）を「あの人（ひと）よりはましなのだ」と思（おも）うことでした。つまり、他人（たうじん）の不幸（ふこう）を自分の生きがいにするようになつていきました。他人（たうじん）の不幸（ふこう）に接（あ）して、自分（じぶん）も決（けつ）して幸（さい）せではないけれども「あの人（ひと）よりはましなのだ」という封建制（けんけんせい）社会（しやかい）の生（な）んだ「ゆがんだ幸福（しあふ）感（かん）」にひたつていったのです。

身体（しんたい）のゆがみは目（め）に見（み）えますが、心（こころ）のゆがみは見（み）えません。だから多くの人々（ひとびと）は、自分（じぶん）が健常者（けんじやうしや）のつもり（つもり）でいます。しかし、身体（しんたい）は健常者（けんじやうしや）でも、私たち（わたしたち）日本人（にっぽんじん）は、差別（さべつ）社会（しやかい）を通過（てうくわ）してきたという「差別（さべつ）のゆがみ」が、心（こころ）に刻（き）印（いん）されているのです。

（以下、次号へつづく）
高知県教育委員会発行
「人権への道」より

中学校の部

選手名の下に○数字は区間順位
●は新記録

大会記録 順位 チーム名	区間 総合 8.9キロ	1 区	2 区	3 区	4 区	5 区
		馬運動場→ 宮林事務所 1.3キロ	宮林事務所 →相名 2.0キロ	相名→ 熊野神社 1.3キロ	熊野神社→ 相名会館 1.7キロ	相名会館→ 馬路運動場 2.6キロ
馬中 3 A	57 30分35秒	中岡則子58 尾谷和加枝57 4分40秒	大野登央57 6分42秒	伊場栄美57 4分55秒	丸山和伯57 5分27秒	木下彰二55 7分44秒
① 馬 中 2 A	31分42秒	西野 千晶 ●4分33秒	笹岡 大輔 ②7分22秒	五味 志乃 ②4分58秒	西山 敦史 ③5分55秒	芝 久義 ①8分54秒
② 馬 中 3 A	32・20	中岡 則子 ④4・47	伊吹 幸憲 ①7・06	乾 美佐恵 ③5・18	田中 靖久 ②5・54	乾 正一 ②9・15
③ 馬 中 1 A	33・19	山中 都江 ⑥5・06	中河 廣吉 ④7・27	田中佳代子 ●4・53	清岡 智樹 ⑦6・32	丸山 貴匠 ③9・21
④ 魚 中 A	33・23	五百蔵志保 ⑤5・03	酒井 賀彦 ⑤7・35	手島 文香 ④5・24	村瀬 久幸 ①5・44	伊吹 卓哉 ④9・37
⑤ 魚 中 B	34・45	萩野 美保 ⑦5・07	藤原 俊二 ⑥7・48	山崎 良恵 ⑥5・47	五百蔵誠一 ④6・12	五百蔵浩二 ⑦9・51
⑥ 馬 中 2 B	34・46	芝 吉宏 ③4・46	八木 昭一 ⑩8・17	田中 睦美 ⑤5・31	八木 浩二 ⑥6・28	平野 文康 ⑤9・44
⑦ 魚 中 C	35・30	上総 良一 ⑪5・11	手島 和広 ⑧8・00	上総 りき ⑦5・50	五百蔵賢次 ⑤6・20	細川・藤田 ⑨10・09
⑧ 馬 中 3 B	36・30	平野 由佳 ⑧5・08	清岡 巧 ③7・23	八木 理恵 ⑧5・54	谷井 博子 ⑫8・18	北岡 栄進 ⑥9・47
⑨ 馬 中 3 C	37・58	木下 妙 ⑨5・09	山中知佐乃 ⑨9・24	晶中あゆみ ⑨5・58	利岡 順子 ⑪7・25	南 宏昌 ⑩10・02
⑩ 馬 中 1 C	38・01	伊吹 真波 ⑫5・37	木下 伸一 ⑦7・59	伊吹 佳恵 ⑪6・35	小島 聖也 ⑧6・34	笹岡・清岡 ⑪11・16
⑪ 魚 中 D	38・39	山中 一之 ②4・45	山中 太志 ⑨8・06	小原 久美 ⑩6・00	山崎 栄喜 ⑨6・51	大野・伊吹 ⑫12・57
⑫ 馬 中 1 B	38・56	中岡 千晶 ⑩5・10	伊場 靖香 ⑪8・53	伊藤 優香 ⑫7・06	小松ちがや ⑩7・07	大野 一幸 ⑩10・40

一般の部

区 間	総 合	1 区	2 区	3 区	4 区	5 区
大会記録 チーム名	森林組合58 30分37秒	竹内 仁58 4 分09秒	小松 博58 7 分13秒	横山 洋57 4 分29秒	清岡哲也57 5 分53秒	甫木義伸58 田中正義57 8 分38秒
①森林爽年隊	31分59秒	山中 孝司 ② 4 分37秒	清岡 哲也 ③ 7 分29秒	乾 進治 ③ 5 分00秒	上総 達也 ① 6 分09秒	甫木 義伸 ① 8 分44秒
②馬路農協	32・54	菜虫 一夫 ⑥ 5 ・ 03	東谷 望史 ⑤ 7 ・ 42	尾谷 倫章 ② 4 ・ 57	前田 博志 ② 6 ・ 21	田中 正義 ② 8 ・ 51
③森林パニック	34・24	久保 啓二 ⑧ 5 ・ 06	小松 博 ② 7 ・ 21	岩田 善稔 ⑤ 5 ・ 25	谷井 憲夫 ④ 6 ・ 39	清岡 真治 ④ 9 ・ 53
④魚体育会	35・13	竹内 仁 ① 4 ・ 25	瀬戸口英昭 ④ 7 ・ 34	橋口 福男 ① 4 ・ 29	広石 功 ⑨ 8 ・ 02	田辺 和男 ⑦ 10 ・ 43
⑤役場 A	35・25	甫木 康徳 ④ 4 ・ 55	清岡 明徳 ● 7 ・ 10	岡田 元生 ⑥ 5 ・ 27	萩野 健一 ⑦ 7 ・ 21	清岡 博之 ⑥ 10 ・ 32
⑥魚営林署	36・49	半崎 修 ⑤ 5 ・ 01	谷 義雄 ⑦ 8 ・ 10	西田 清男 ⑧ 6 ・ 03	和田 弘夫 ③ 6 ・ 23	石黒美津雄 ⑩ 11 ・ 12
⑦魚小学校	37・01	内原 美穂 ⑦ 5 ・ 05	酒井 信弥 ⑥ 7 ・ 55	家野本孝志 ⑪ 6 ・ 26	山中 尚之 ⑤ 7 ・ 09	小原 健 ⑤ 10 ・ 26
⑧馬子供会	38・10	中岡 恭子 ⑨ 5 ・ 10	乾 真琴 ⑧ 9 ・ 16	尾谷 暁 ⑥ 5 ・ 27	樋口 達也 ⑥ 7 ・ 15	笹岡 和仁 ⑨ 11 ・ 02
⑨馬路教員	38・38	田中 紀子 ⑪ 5 ・ 19	山中 理史 ⑨ 9 ・ 18	芦原 睦 ⑨ 6 ・ 07	久保田和永子 ⑩ 8 ・ 19	大坪 礎 ③ 9 ・ 35
⑩魚小教員	40・04	明石 一郎 ③ 4 ・ 48	安養寺幸恵 ⑪ 10 ・ 25	久保 加奈 ④ 5 ・ 23	長山 久子 ⑪ 8 ・ 31	岡林 福督 ⑧ 10 ・ 57
⑪役場 B	42・47	下田 博之 ⑩ 5 ・ 15	西野 真司 ⑩ 10 ・ 18	甫木 成子 ⑩ 6 ・ 12	山中 隆 ⑫ 8 ・ 36	上治 堂司 ⑪ 12 ・ 26
⑫走 乙 女	46・30	中岡 かず ⑫ 6 ・ 30	久保 科 ⑫ 12 ・ 43	山中 芳 ⑫ 7 ・ 00	岡嶋 加枝 ⑧ 7 ・ 38	中屋イトミ ⑫ 12 ・ 39



第3回馬路村民駅伝競走大会は
一月二十六日に行なわれました。
当日は晴天に恵まれ、小学生二
チームを含む一般十二チーム、中

第三回馬路村民駅伝競走 森林が三年連続・中学は馬中2A

学十二チームの参加により、午後
二時三十分、村長のピストルの合
図でスタート。前半三区間、後半
二区間の合計八・九キロで健脚を

競いました。
結果は表のとおりです。
また大会後には、高知県走ろう
会の理事長、曾我稔さんの「私と
スポーツ」と題した講演会がひら
かれ、就改センターで行なわれた
懇親会にも多数が出席。スポー
ツ
談義に花をさかせていました。



冬季大会

昭和五十九年度馬路村内ス
カッシュバレーボール冬季大
会は、馬路地区が二月二十二
日、魚梁瀬地区は二月二十六
日に行われました。

寒い時期にもかかわらず、
馬路地区大会に六チームが、
魚梁瀬地区大会にも十チーム
が参加し、熱戦がくりひろげ
られました。

主な結果は次のとおりです。

▼馬路地区大会▲
優秀賞―伊藤チーム(伊藤
美千子・岡嶋喜美
恵・尾谷直子)

二位―南チーム

▼魚梁瀬地区大会▲
Aゾーン
優秀賞―農協チーム(門田
加代子・谷井己代
子・杉山久子)

二位―湯浅チーム

Bゾーン
優秀賞―魚梁瀬木村(井上
洸士郎・五百蔵尋
寿・上総康子)

二位―メリヤスチーム

馬路村の 歴史と 伝説



<七>

金林寺薬師堂

馬路公民館長 山中 巖

金林寺薬師堂には、昔からいろいろな行事・祭典が伝えられています。その一つに「謡の口開け」という珍しい行事があります。

毎年一月一日、午前八時ごろに、



↑ 毎年1月1日にこの須弥壇(しゅみだん)の前で儀式が行われる。

(注) 牛頭天王とは、インドの祇園精舎(むかし、須達がお釈迦さまのために建てた寺)の守り神であるといわれ、祇園天王、または天王とも呼ばれます。

馬路村では、金林寺薬師堂の北側に祭られていたが、明治時代に熊野神社へ合祀されました。しかし、「天王」という地名は残って、今も地区民に親しまれています。

儀式の役係は次のとおりです。

- 金林寺の住持(住職)は、仁王般若経を誦読します。
- 神主は、牛王札をしたためます。
- 岡田家は、御飯を備えます。
- 大家・中屋の両家から亭主役を勤めます。
- 久保・中屋両家は、ご馳走役。
- 南家は、堂社のお目付役。

儀式に必要な品は村々で準備し、お雑煎芋の芋は瀬戸ヶ谷で作られたものを使用しました。当時(約四百年前)は、雑煎に芋を使っていたことがわかります。

儀式

(注) お祝いの儀式は、慶長三年に書かれたと伝えられる古文書によって記しました。四百年も昔のもので、その後、時代の移り変わりとともに、内容も少し変わってきていると思われます。

さて、この儀式の特徴はなんでしょう。私見を二・三述べて、ご意見をいただきたいと思います。

まず第一に、住職と神主が一緒に儀式に参加してきたことです。これは、神仏習合の思想にもとづいたもので、四百年以上も続けられてきたのは珍しいことでしょう。

第二に、それぞれの役係の子孫や関係者が出席し、村の長上、客人とともに、よく古式が伝えられてきたことです。

第三に、「仁王般若経」の誦読です。このお経は、国家を鎮護し、国王の長寿を祈り、天下の平和と七難をのぞく修法のものです。しかし、その反面、国王や為政者が「宗教の自由」を侵すことを強くいましめています。もし為政者が権力をもって仏教を統制し、自由を束縛するならば、仏法は滅び、国家は破れるであろうと、説いているのです。

私たちの祖先は、このお経を唱えながら、その心を心として、金林寺を支えてきたものと考えられます。

優良運転者表彰 受賞手続について

交通安全協会

安芸支部

交通安全協会安芸支部では毎年六月に優良運転者を表彰しています。次の基準に該当されると思われる方は、四月十日までに、役場の交通安全係まで申し出て下さい。

選考基準

- ◇安全協会の会員である者。
- ◇普通免許以上、または自動二輪(原付を含む)の免許を所持し、プロ運転手十年以上、その他十五年以上の運転経験をもつ者。
- ◇過去十年以内に交通事故や、悪質違反で処罰を受けたことがない者。
- ◇過去三年以内に交通違反や事故により、三点以上、または二回以上の反則通告処分を受けたことがない者。





婦人の窓

村おこしは

私たちの課題

馬路婦人会長

式部 佐由里

桜のつぼみもふくらみ、日増しに春らしくなってきました。婦人会員のみなさまには、ますますお元気で、一家の太陽として日々の生活に取り組んでおられることと存じます。

婦人会活動には、いつもご協力をいただき、まことにありがとうございます。

昭和五十九年度の行事も、みなさまのお力ぞえにより、精力的に消化しながら、昭和六十年を迎えようとしております。心より厚くお礼を申し上げます。

馬路婦人会、百五十人の会員は、自らの向上と地域のボランティア活動に取り組む、明るく豊かな村づくりのために頑張っております。目標は、昨年度に引き続き「激動する社会に対応できる知識と教

養を高め、合理的な生活のできる婦人となること。また、心身ともに健康で明るい幸せな地域づくりのため、結核と成人病の予防に協力し、あわせて公衆衛生の向上に努めること」としており、本来の婦人会と、健康づくり婦人会の役割をバランスよく内容に取り入れて活動しております。

部活動も、五十九年度は手ぎわよく処理され、取り組みも積極的になりました。婦人の窓への投稿も、内容が豊かになりつつあることはうれしいことです。また、ときどき「ゴキブリがいなくなった」との声も聞かれ、環境衛生はやはり婦人がやらなければと、自負するところですが、村内美化の空缶拾いも、一度は雨の中の作業で大変でしたが、みんなで団結して行動したので、大した苦とはならないようでした。

また、「かじや地区」の花畑は、四季おりおりの花が咲き、道ゆく人の心を和らげます。全村こんなに花が咲いたらどんなにきれいだろうと思うのも、婦人だけの夢で

↓文化祭でのゆず豆腐づくり



しょうか。

健康づくり婦人会では、魚梁瀬文化祭での「ゆず豆腐」が好評でした。

また、五十九年度の大きな事業は、十一月の三宝山の下刈りでした。急勾配のため、災害保険に加入するなど心配しましたが、みんな協力しあい無事故で作業を終了した時には、心地よい風が体を吹きぬけるのを覚えました。きれいになった三宝山に、刈り残した花木が花をつける時期が待ち遠しい昨今です。

文化部のメイン行事は、なんといっても納涼祭や敬老会の踊りと寸劇でした。今後の活躍が期待されます。

アフリカ難民への義援金募金も最終的に約七万円が集まりました。

ご協力くださった村民のみなさまに、厚くお礼を申し上げます。

私たちは、豊かな村づくりのために、このように活動してまいりましたが、現在、村では急激に進化する過疎をなんとか止めたいと村おこし事業の推進に取り組んでおります。婦人会としても、一人のアイディアを結集し、村の明暗をかけるこの事業のお手伝いをしたいころではありませんか。村おこしは、私たちの課題です。

今後、村民のみなさまやご家族の方々のご協力をお願い申し上げます。また、婦人会員のみなさまが、健康で明るい家庭をつくられ、豊かな村づくりのために活躍されますことを、ぜひにお願い申し上げます。

祭費改正の おしらせ

〈金林寺〉

祭費につきましては、かねてから改正の必要がありましたが、金林寺としましては、寺の改修などのために増信徒のみなさまから多大の御献資をいただいた関係もありまして、改正をみ合わせてまいりました。

しかし、祭費の改正は五年間もすえおいており、また、近隣六寺院の祭費などの調査資料を検討しました結果、三月六日の総代会において、次のとおり三月十五日から改正することになりました。

みなさまがたのご理解とご協力をお願い申し上げます。

▽ 葬式 — 五万円

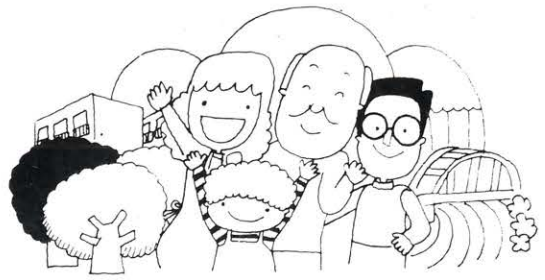
▽ 法事 — 一万五千元

▽ 盆行 — 一万円

▽ 負担金 — 壇徒三千円

※ただし、一菩提以上の法事を同時にとり行なう場合は、一菩提増すごとに五千円の追加。開眼法要改葬については従来どおり八千円と二万円。

のひろは



北方領土問題 解決のために

清岡 寿幸

広報うまじ第一一〇号の「二月七日は北方領土の日」を拝読して思うことは、「いわゆる北方領土とは四島だけか」「単なる機械的外交交渉で、たとえ国民の声が高まったとしても解決するだろうか」ということである。

日本政府によると「北方領土」とは、歯舞・色丹・国後・択捉の四つの島としているが、返還されるべきは、北海道の一部である歯舞・色丹はもちろんのこと、北千島を含む全千島ではなからうか。

歴史的にみても、千島列島は戦争や侵略によって日本がロシアから併合したのではなく、十九世紀に日露通好条約（一八五五年）で南千島を、また一八七五年の樺太・千島交換条約で北千島も、平和的に日本に移譲され、全千島が最終的に日本の領土となったものである。

ところが、ソ連は社会主義の大義を乱暴にふみにじり、第二次世界大戦の戦後処理の国際的なきまりである「領土不拡大」の原則に反して、千島列島・歯舞・色丹を

一方的にソ連領に編入し、今日まで不当占有している。

一方、日本政府も一九五一年に結んだ「サンフランシスコ条約」第二条C項で、千島列島に対する権利・権限・請求権を放棄してしまった。そして現在、南千島の国後・択捉を「千島にあらず」と強弁し、この両島と歯舞・色丹の四島返還を唱えている。

このような国際的にも通用しない詭弁に、いつまでもしがみつくとなく、サンフランシスコ条約第二条C項の廃棄を関係諸国に通告し、日本国民の当然な領土返還要求の国際法的基盤を確立するとともに、全千島返還のための対ソ交渉を力づくで推進することが、正しい北方領土返還の方法であり、国際的に通用する道と思う。

したがって「北方領土の日」は、樺太・千島交換条約で最終的に日露国境が確定した五月七日にすべきと思う。



歳時記

ふきのとう

小松 美和

子どもの遊び場所を求めて、今は空家の庭先に立つ。

主のいない庭のあちこちで、寒気の中に身をさらして春の足音に耳をすましている花々。暖かい微風のささやきを待ちかねている木々。それは、人の姿にも似てなんともいじらしい。そんな木々の根もとに、ふきのとうがみつ、

よつつ。硬い地面を割って顔を出している。もう少し、あと一日と待っていたが、そろそろ食べごろ。

今日は摘んで、そばで遊ぶ幼子に手渡せば、「ボー

（ボールの意味）とのたまう。

「ボールじゃないのよ。ふきのとうよ」と教えれば、またしても「ボー」。「ボールじゃないの。ふきのとう」「ボー」「ふきのとう」「ボー」……。

がんこなところは、生みの親に似たのか、育ての親に似たのか、



か。ボールだといってきかない。昼食時、はしやすめに、その「ボー」を天ぷらにして添える。ほろにがさが口いっぱいひろがって、季節を食する満足感で豊かな気分になる。

ありがたいといえあればありがたいのだけれど、すっかり季節感のなくなった昨今の食卓。山に暮らせばこれがいい。草が、木々が、風が、水までが、時の移ろいかわることなく語りかけ

くれる。あと一カ月もすれば、二歳になる彼。見れば「イヤン」（いらん）と、おはしの先で「ボー」をはじき出し、ご飯ばかりをかきこんでいる。その姿が、おかしくもあり、かわいくもある。

来年、この「ボー」が食卓にのぼるころ、彼は、私の手もとを離れてゆく。

村民

馬路・魚梁瀬

俳句会

梨花

夜具更えてくつろぐ心実南天
従妹の計冬夕焼も涙色
冬の雨いたわる如くそっと来る

亀寿

母の忌を修し野菊の里を発つ
故里を発つ日の庭に柿たわわ
日向ぼこ小犬ねむれば児もねむる

喜美 栄

煮つまった煎じ薬や寒に入る
枯すすきと金色そよぐ風
良きつどい又よきつどい春を待つ

善 心

古式にて初会の盃の身にしみる
ぬかつけばわらじ一丈冬茜
日だまりに春の命が一つあり

昨

年暮るる日も計算器打ちて居り
夢なべて捨てしにあらす寒紅梅
買初めのカセットテープ一つのみ

弥生

初霜や物干竿の節の上
空高くかがやくものは蝶のはね
とじはね静かにひらき蝶は死ぬ

千鶴子

歯切れ良き初雷去りしより眠る
こげる程ぬれ手差し入れ焚火かな
去年今年テレビいびきの夫の部屋

うた子

川風に身をつつまれて年の暮
風の日のふくらみ初めし紅梅よ
校庭でたこ上げる子の健やかさ

百合子

水仙の池に漂う米寿かな
妹は鮭の真中くれて有り
はからずも寺で合寄り去年今年

雅子

春一番わが家に帽子飛んで来る
今日もまたこの冬の寒さです
お正月横文字一つ辞書を引く

麗山子

ダム底に落武者のいる冬紅葉
湖冷えてわれも落武者弓を射る
寒林に入りて呼吸の定まり



中国残留孤児

を迎えて思う

岩城 義喜



中国残留孤児の第六次訪日調査
団九十人のうち、第一陣の黒竜江
省関係者四十五人の一行が、昭和
五十九年十一月二十二日、成田空
港に到着した。

テレビは、一行の先頭が声をあ
げて泣きながら、空港のロビーを
歩き進んでくる姿を報じていた。
その光景に、私は思わずもらい泣
きをしてしまいました。

祖国日本へ着いた安堵の喜びで
あろうか。血のつながりからくる
郷愁と甘えが、いっせきに爆発した
のであろうか。かれらの動作には
四十年の長い間につちかわれた大
陸でのおおらかな表現法が乗りう
つっているようでした。

自分の意志には無関係に、敗戦
の混乱時、親兄弟姉妹と別れ別れ
になってしまった孤児たち。別れ
方にも、生き別れあり、死別の場
合もあり。ソ連軍の侵入による混
乱のなかで、「せめてこの子だけ
は生きてくれよ」と願い、里子に
出された孤児もあり。また、親兄
弟からはぐれて捨て子同様の状態
となり、拾われて里子となった人

もあり。千差万別であったこと
でしょう。

養父母の孤児に対する接し方も、
テレビや新聞で報じられているよ
うな模範的な養父母ばかりではな
く、まますのごとく、あるいは奴
隸的な境遇の孤児もあったことと
思われます。まだ中国東北部には、
何百人にもなる孤児がいること
でしょう。

苦勞と苦難と悲しみは、まだ幼
かった孤児たちの肉体の上にも、
精神の上にも加えられたことだろ
う。日本が、日本人が、長い間に
わたって、中国で侵した罪悪に対
する報復の意味もあって、孤児た
ちが受けた迫害は、日中の国交が
回復するまで続いたことでしょう。

美しい祖国の山河に接し、温か
い歓迎のあらしに迎えられ、二度
と踏むことはありえないと思った
祖国の土を踏んだ時に、思わず日
本人の血潮が躍ったせいかもしれ
ない。あの大形な泣き方が、四十
年の歴史を物語っている。

短い滞在であり、戦後四十年の
今、彼らの両親もこの世の人でな
くなくなっているかもしれない。また、
あの混乱の時に、孤児と別れたあ
と生命を奪われた人たちもあり、
全く情報のなくなった孤児もいる
だろう。私の同級生の佐竹功君も
祖国の地、舞鶴まで帰ってきなが
らもそこで死亡しています。

せっかく日本へきて、肉親にも
会えず、その消息さえ得られず、
中国へ帰る孤児を思うと、ただだ
だ心の痛みを感じます。

四十年もの長い間、かれらを大
陸に放置した日本政府として、な
にかの方法で報いることができな
いものかと、思い巡らすものであ
る。

アフリカの難民といえば、それ
毛布とか食糧とか、ワイワイさわ
いであるが、孤児たちは同じ血の
流れている日本人同胞です。なん
とかならないものでしょうか。

私も満州のとなりの北支で終戦
を迎え、そして無事に復員するこ
とができました。原爆が投下され
なかつたら、あの時終戦になった
だろう。戦争があと一年続いて
いたとしたら、私たちは中国でど
のような運命をたどったのだろ
うか。南方へ転戦していたかもしれ
ない。ソ連軍と戦って生きて帰れ
ただろうか。運命とは……。

運命の間にもあそびされた中
国残留孤児に思いをはせて、ただ
ただ感無量である。



家族で話し合おう 交通安全



子供は“動く赤信号”

子供の交通事故の約60%は、道路への飛び出しです。なぜ、子供は道路に飛び出してしまっているのでしょうか。

その原因の一つに、子供の行動特性があります。子供は一つのことに関心が向くと、他のことに気が回らなくなってしまうのです。

例えば、路地でボール遊びをしていて、ボールが道路に転がってしまったとします。こんな時、大人ならば、急に道路に飛び出せば車にはねられるかもしれないと思い、一度止まります。しかし、子供はボールを追いかけていなければならない意識で頭がいっぱいになり、安全も確認せず飛び出してしまっているのです。

時として子供は、大人が想像できないような行動をとります。ドライバーの皆さん、子供を見たら、“動く赤信号”と思い“見込み運転”などせず、スピードを落とし、子供の動きに十分注意して走りましょう。

消火器の悪質セールスの例



家庭への消火器の設置 訪問販売について



- 火災の予防上、家庭に一本は消火器を備えつけたいものです。
- しかし、最近、全国的に一部の悪質な消火器訪問販売業者と一般消費者の間で、その販売方法が原因と思われるトラブルが続発しており、社会問題となっています。
- 中芸消防署管内でも、通常より高い値段で購入させられたなどの被害があつていますので、十分ご注意ください。
- ▽ 消防法では、家庭には消火器を設置する必要はありません。
- ▽ 県や消防署は、消火器の販売や点検を業者に依頼することはありません。
- ▽ 購入される場合は、国家検定に合格したもの（ラベルに検定マーク貼付）を、適正な価格で購入してください。
- ▽ 特に、女性・老人の留守番時にはご注意ください。
- また、せっかく消火器を備えても、いざという時に使用できなければなりません。消火器の使用法や薬剤の交換などで不安な方、また訪問販売で不審な時は、消防署までご相談ください。

一生おめいじやいします

父 母 赤ちゃん 続柄 月 日 部落

山達也 道子 侑也 長男 1月28日 影
牛窓茂敏 美代 由記子 長女 1月4日 日浦